

ちょうじゃ が はら い せき
長者ヶ原遺跡



- ・ 指定日 昭和46年5月27日
- ・ 追加指定日 昭和60年5月27日
- ・ 所在地 一ノ宮
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者
- ・ 時代 縄文

[地図表](#) 戻る



市街地の南方約2km、標高90m前後の丘陵地に立地する縄文時代中期を主体とする集落跡です。昭和29年（1954）から平成10年（1998）にかけての13回にわたる発掘調査により、遺跡の範囲は約14万㎡にも及び、確認された竪穴住居跡、土坑、掘立柱建物跡などから、北陸地方屈指の規模を誇る環状集落であったことは明らかです。

膨大な出土品には、この遺跡の特徴であるヒスイの玉や蛇紋岩の石斧などの制作に関わる資料のほか、北陸地方の土器はもちろん、火焰式土器などの周辺地域の資料も多く含まれています。

これらのことから、玉類や磨製石斧を製作した地域の拠点集落遺跡として重要であるばかりでなく、縄文時代の文化・社会などの解明にとっても欠かすことのできない貴重な遺跡です。

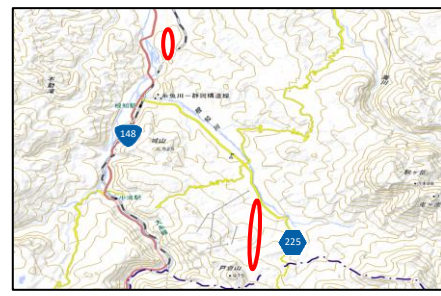
てらじいせき
寺地遺跡

- ・ 指定日 昭和55年12月5日
- ・ 所在地 寺地
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者
- ・ 時代 縄文

[地図表](#) 戻る



姫川と青海川の両河口にはさまれ、日本海に面する標高約8mの低丘陵の先端部に営まれた縄文時代中期と晩期の集落跡です。玉作工房跡とされる縄文時代中期と晩期の6基の竪穴住居跡や径60cm余の巨木柱、立石を伴う縄文時代晩期の配石遺構などが確認され、硬玉ヒスイや石器、土器片、骨片など多数の遺物が出土しました。縄文時代中期と晩期におけるヒスイの玉製作の実態や特殊な祭祀の形態をうかがうことのできる遺跡です。

まつもとかいどう
松本街道

- ・ 指定日 平成14年3月19日
- ・ 追加指定日 平成19年7月26日
令和7年3月10日
- ・ 所在地 大野、根知
- ・ 所有者 糸魚川市、山口区、個人
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



国道148号や大糸線が開通するまで往来があった街道で、糸魚川と信州松本を結び、ボッカや牛方^{うしかた}が塩や海産物を運んだことから「塩の道」としても知られています。道路跡はもちろん、上杉謙信が武田信玄に塩を送ったとされる故事、番所や信州問屋に関する資料などもたくさん残っていることから、当地域の生業や交易の特性を示す古道として重要です。国の史跡指定の範囲は、往時の道路跡を良く残している大野地区と根知地区の約5kmの古道と、石仏群や茶屋跡・番所跡の関連遺跡で、毎年、この街道を歩く行事が催されています。

※令和7年3月に山口関所跡が追加指定となりました。

[4108参照](#)

そう まぎょふうたく
相馬御風宅



- ・ 指定日 昭和27年12月10日
- ・ 所在地 大町2丁目
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者
- ・ 時代 昭和

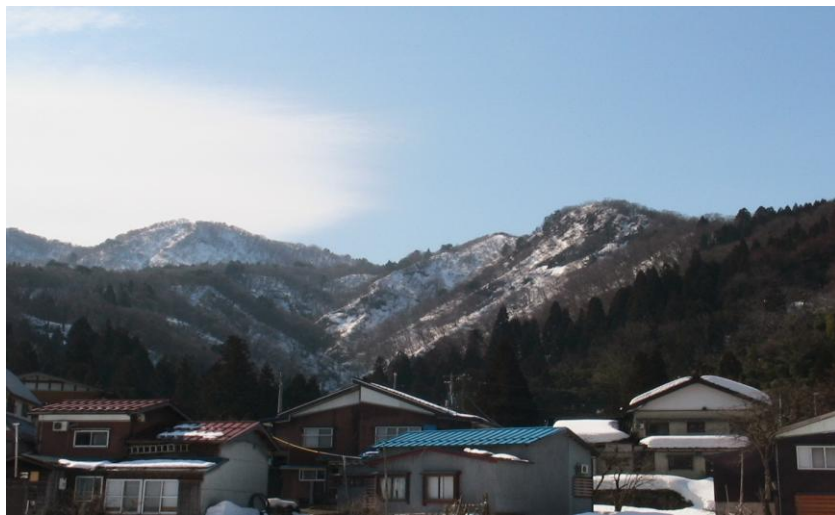
[地図表](#) 戻る



相馬御風（^{まさはる}昌治）は明治16年（1883）に宮大工の旧家に生まれ、高田中学校（高田高等学校）を経て、早稲田大学に進学しました。在京時代は、叙情歌人・随筆家・文芸評論家として、明治から大正期の中央文壇で華々しく活躍しましたが、大正5年（1916）に故郷へ帰り、以降の半生を良寛研究にささげるとともに後進の指導、地域文化の振興に力を尽くし、昭和25年（1950）に67歳で没しました。昭和4年（1929）建築の居宅は旧国道に面し、瓦葺雁木付の塀と前庭をもつ二階建ての落ち着いたきのある構えで、応接間や書斎、蔵などは当時のまま残されています。

御風関係の資料などは、[糸魚川歴史民俗資料館](#)に収蔵展示されています。

ね ち じょうせき
根知城跡



- ・ 指定日 昭和63年3月25日
- ・ 所在地 根小屋、栗山
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



姫川と根知川の合流地点に張り出した尾根を中心に構築された中世の山城跡で、標高525mの最頂部からは信越境から根知谷・姫川谷を眺望できます。築城年代は不明ですが、文献などから上杉謙信以前の時代まで遡ることができ、城主は^{ね ち}禰智氏・村上氏・堀氏などが歴任したとされ、上杉景勝の時期には武田方の仁科盛信の臣下が根知城勤番を命ぜられています。

本城は尾根を大規模に築造した根小屋城、館跡と推定される栗山城（^{かみじょうやま}ウツグラ館跡）、最頂部の上城山城、などの遺構群からなり、当地方でも最大の規模を誇り、信濃国（長野県）に対する越後側の最前線基地として重要な役割を担った山城として貴重です。

ふ どう やまじょうせき
不動山城跡



- ・ 指定日 昭和45年3月26日
- ・ 所在地 越
- ・ 所有者 越区
- ・ 管理者

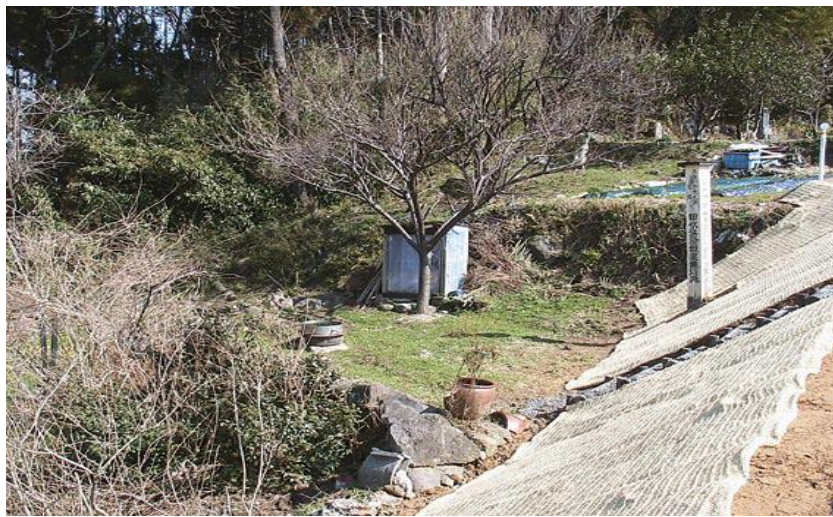
[地図](#)
[表](#) 戻る



中世、戦国時代の山城跡で、早川河口から約4km上流右岸の標高約450mの独立峰にあります。眼下の早川谷と支城とされる^{かなやま}金山城跡をはじめ、遠方の^{ねち}根知城跡や親不知方面を眺望でき、山城としては絶好な立地条件を備えています。築城年代は南北朝時代の頃とされ、文献上には16世紀後半に現れます。山の中腹にある^{よう}要害集落を含めて広範囲ですが、史跡指定は山頂の本丸跡にとどまります。

上杉家譜代の^{さんぼんじ}山本寺氏の居城とされますが、資料的に明らかではありません。「本丸」「二の丸」「三の丸」と称する^{くるわ}郭群が残る山頂から「御殿屋敷」「ヤリトギバ」などの残る要害集落の間には、「帯郭」「堀切」「豎堀」「^{あぜ}畦方豎堀」「井戸」などといった多数の遺構が良好な状態で残っています。

たぶせはまさ てつせいれん いせき
田伏浜砂鉄製錬遺跡



- ・ 指定日 昭和45年3月26日
- ・ 所在地 田伏
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



北陸本線梶屋敷駅の西方200m、田伏地区の大雲寺と奴奈川神社の間にあり、その北側には早川・海川河口の間に形成された海岸砂丘が広がっています。昭和44年（1969）に部分的な発掘調査が実施され、時期は不明ですが、^{るつぼ} 坩堝状遺構と^{ふいご} 鞴の羽口や^{てっさい} 鉄滓などが確認されました。この遺跡の営まれた時期は明らかではありませんが、当地方において製鉄関連遺跡は他になく、貴重な遺跡の一つです。

やまぐちせきしょあと
山口関所跡



※
指定
解除

- ・ 指定日 昭和49年3月28日
- ・ 所在地 山口
- ・ 所有者 山口区
- ・ 管理者

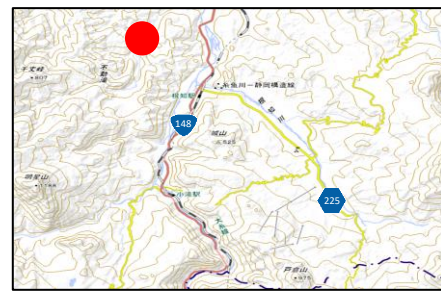
解除日：2025年3月10日
※国指定に昇格したため、市指定は解除

[地図](#)
[表](#) 戻る



根知川左岸の山口集落にあり、糸魚川と信州松本を結ぶ松本街道（塩の道）の東ルートに設置された関所の跡で、今日では住宅と畑になっています。設置年代は不詳ですが、[虫川関所](#)^{むしかわ}と共に天正2年（1574）まで遡^{さかのぼ}ることができます。平成5年（1993）に松本街道の整備事業に伴って一部で発掘されましたが、関所に関連する遺構や遺物は確認できませんでした。松本街道はこの関所跡を過ぎると大網峠^{きゆうしゅん}へ向かう急峻な山路となることから、その要所に関所が設けられたものとされます。

むしかわせきしょあと
虫川関所跡



- ・ 指定日 昭和49年3月28日
- ・ 所在地 大谷内
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者

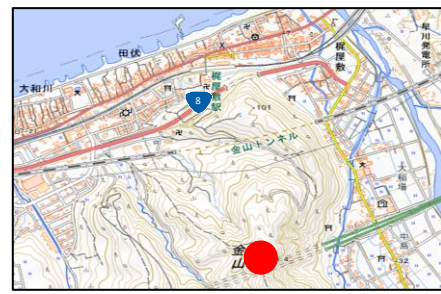
[地図](#)
[表](#) 戻る



姫川支流の虫川沿いに開けた虫川集落（廃村）にあり、糸魚川と信州松本を結ぶ松本街道（塩の道）の西ルートに設置された関所の跡です。設置年代は不詳ですが、上杉謙信から出された御法式御条目五ヶ条などから、遅くとも天正2年（1574）までに設置されていたと考えられています。

かな やまじょうせき

金山城跡



- ・ 指定日 昭和49年3月28日
- ・ 所在地 田伏
- ・ 所有者 田伏生産森林組合
- ・ 管理者

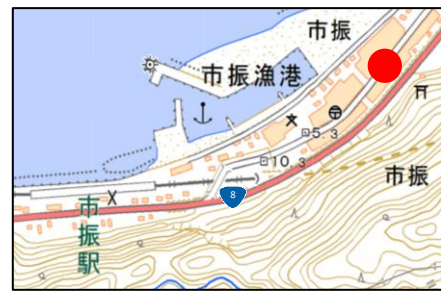
[地図表](#) 戻る



早川河口の左岸の河岸近くまで張り出した尾根に構築された中世の山城跡で、その東側は「立壁^{たてかべ}」という地名が示すように急な崖となっています。[不動山城^{ふどうやま}](#)の支城とされるこの城跡の頂付近には、小規模な郭や堀切^{くるわ}などが残るだけですが、海岸ルートの監視を担った重要な山城であったことがうかがえます。

本跡東側の低位段丘に立地する立ノ内^{たてのうち}遺跡では、15世紀後半から16世紀前半にわたる掘立柱建物群が確認され、本跡に関連する館跡と考えられています。

でんばしょう やど ききょうや あと
伝芭蕉の宿桔梗屋跡



- ・ 指定日 昭和50年2月15日
- ・ 所在地 市振
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



俳人松尾芭蕉は元禄2年（1689）7月12日に市振に宿をとり、紀行文『奥の細道』に次の句を詠んだことが記されています。

一つ家に 遊女も寝たり 萩と月

その宿が市振の桔梗屋だと伝えられています。安政3年（1856）に刊行された俳人中江晩籟ばんらいの句集『三富集』さんぶには次のように記されています。

市振の桔梗屋に宿る。むかし蕉翁、此宿に一泊の時、
遊女も寝たる旧地なり

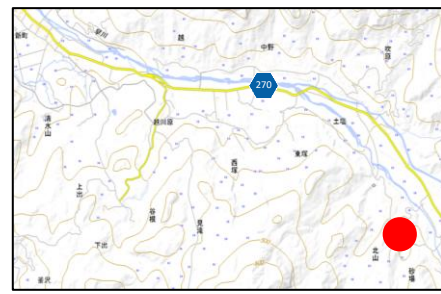
寝覚めして 何やらゆかし 宿の花

良寛もこの地に一宿し、次の句を詠んだといわれています。

市振や 芭蕉も寝たり おぼろ月

桔梗屋は、市振宿における脇本陣でしたが、大正3年（1914）の大火で焼失してしまいました。

さ た じん じゃ さい し い こう づ かり しゃ そう
佐多神社祭祀遺構付社叢



- ・ 指定日 昭和51年3月30日
- ・ 所在地 北山
- ・ 所有者 佐多神社
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



早川上流左岸、北山集落の旧地とされる屋敷平に残存する佐多神社境内とその西側の傾斜地にあります。境内西端の^{とち}栃と杉の古木の根元には、天保13年（1842）の石祠と2m近い大岩があり、その西側の傾斜地には20数個の岩塊がこれらを取り囲むように散在します。これらの時期や規模など、祭祀に関連するものか否かは定かではありませんが、^{しきないしゃ}式内社「佐多神社」の推定地の一つであり、^{ほお}栃・杉・朴などの古木からなる社叢は、根元の岩塊と相まって特異な雰囲気を感じさせ、より古い神社形態を連想させます。

てらじいせき
寺地遺跡



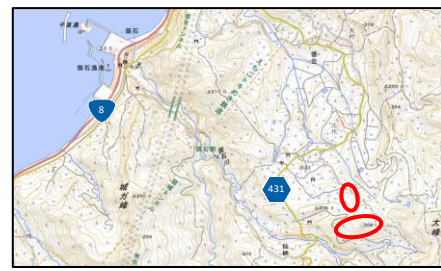
- ・ 指定日 平成10年2月17日
- ・ 所在地 寺地
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者
- ・ 時代 縄文

[地図表](#) 戻る



[国史跡寺地遺跡](#)の指定範囲南部に隣接し、遺構は確認されていませんが、縄文時代中期前半、後期後半から晩期前半の縄文土器や石器、土製品とともにヒスイ原石等の遺物が多量に出土していることから、寺地遺跡の一部であると確認できます。この区域は、削平や攪乱^{かくらん}などを受けていますが、区域西部の沢状落込部に遺物を多量に包含した堆積層が残っています。

とく あい じょう せき
徳合城跡



- ・ 指定日 平成17年2月28日
- ・ 所在地 徳合
- ・ 所有者 徳合城址保存会
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



標高316mのトヤ峰を中核に^{くるわ}曲輪が重なり、東方の大峰砦を詰^{つめ}城、海岸の筒石城（城ヶ峰）を支城とする堅固な中世の城館跡です。鎌倉時代末期から南北朝時代の頃には西浜頸城郡^{そのだのほ}藺田保の地頭であった村山氏が城を構え、戦国時代末期には根知城主村上義清の子、国清が城主であったとも伝えられています。戦国時代においては越後上杉氏の居城である春日山城の支城として重要な役目を果たしたものと思われます。「たての屋敷」と呼ばれる泥田堀で囲まれた館跡や城主の菩提寺である宝昌寺をはじめ、城に関する遺構や地名が今も多く良好に残っています。

おやしらず こしらず
親不知子不知



- ・ 指定日 昭和37年3月29日
- ・ 追加指定日 昭和49年3月30日
- ・ 所在地 市振
- ・ 所有者 国、糸魚川市
- ・ 管理者

[地図](#)
[表](#) 戻る



飛騨山脈の北端が、断崖となって日本海になだれ落ちる親不知海岸は、古来より北陸道の最大の難所として全国に知られ、多くの遭難秘話を伝えています。「波^よ除け不動」「波除け観音」「大フトコロ」「走りこみ」「大クズレ」などの伝説遺跡に富み、日本海に迫る大断崖と砂浜の織りなす雄大な自然景観は比類がありません。

現在は波の浸食等によって海岸を通行することはできませんが、昭和61年（1986）の「日本の道百選」（建設省）や平成19年（2007）の「土木遺産」（国土交通省）に選定された「親不知コミュニティロード」（旧国道）からは、この断崖と眼下に広がる日本海を間近に眺めることができます。

みち ふうけいち おや
おくのほそ道の風景地親しらず



- ・ 指定日 平成26年3月18日
- ・ 所在地 市振
- ・ 所有者 国
- ・ 管理者 糸魚川市

[地図表](#) 戻る



「親しらず」は古来、軍記・紀行文に記された交通の難所です。断崖絶壁と風光明媚な海浜からなる優れた風景は、鑑賞上の高い価値をもち、その雄大な自然景観は比類ないものです。『おくのほそ道』では、松尾芭蕉は元禄2年（1689）旧暦7月に市振に宿泊し、『一つ家に 遊女も寝たり 萩と月』という名句を遺して^{のこ}います。

「親しらず」も含め、俳句に詠まれた由来地は、『おくのほそ道』という文学作品を通じて相互に繋がり、一体の風景景観をなす「おくのほそ道の風景地」として名勝に指定されています。

のうはくさんじんじゃしゃそう
能生白山神社社叢

- ・ 指定日 昭和12年12月21日
- ・ 所在地 能生
- ・ 所有者 白山神社
- ・ 管理者 白山神社文化財保存会

[地図表](#) 戻る



能生白山神社の裏山は権現山あるいは尾山^{おやま}といわれ、地域の^{あつ}人々の篤い信仰心によって守られてきました。このため、数百年来の自然植生が残されています。海に面している北側は高さ約90mの断崖で、対馬暖流の影響によってツバキ、アカガシ、シロダモ、シダ類などの暖地性樹種が多生し、寒地性の樹種も混生するとともに亜熱帯性の昆虫や珍しい陸産貝類も生息しています。

のう はっせいち
能生ヒメハルゼミ発生地



- ・ 指定日 昭和17年10月14日
- ・ 所在地 能生
- ・ 所有者 白山神社
- ・ 管理者 白山神社文化財保存会

[地図表](#) 戻る



ヒメハルゼミはセミ類の中では最も小さい仲間^に属し、体長は約3cm、^{はねはし}翅端までは3.5cm位、細身で体にはオリーブ色の地に数本の黒条があり、腹部は暗緑褐色で第四節の両側がイボ状に突出しています。翅は透明で緑色の条斑が見られ、ハルゼミに似て小さいことからヒメハルゼミと名付けられたとされています。日本特産で、本州から琉球列島に生息していますが、わかっているところでは、日本海側の発生地は兵庫県城崎温泉^{きのさき}付近と能生白山神社の社叢^{しゃそう}だけに限られます。

平成8年（1996）には「日本の音風景百選」（環境省）に「尾山のヒメハルゼミ」として選ばれ、7月下旬に始まるヒメハルゼミの大合唱は夏の風物詩として親しまれています。

こたきがわこうぎょくさんち
小滝川硬玉産地

- ・ 指定日 昭和31年6月29日
- ・ 所在地 小滝
- ・ 所有者 国・法人等
- ・ 管理者 糸魚川市

[地図表](#) 戻る



硬玉（ヒスイ）は、^{じゃもんがん}蛇紋岩中に混じって産出する白色または緑色半透明のきわめて硬い鉱物で、古来より装飾品や^{いしんざい}威信財として珍重されてきました。明星山下を流れる小滝川の河床には硬玉の巨大な転石が散在しています。

硬玉はわが国に産出しないとされていましたが、昭和の初め、小滝川や青海川橋立で発見されました。

硬玉の加工遺跡が下流域で確認されたことから、この原産地は当地の地質・鉱物学はもちろん、先史・古代文化史の上でも貴重な存在です。

国 記念物 天然記念物

おうみがわ こうぎょくさんち およ こうぎょくがんかい
青海川の硬玉産地及び硬玉岩塊



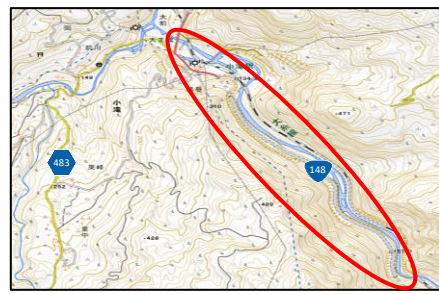
- ・ 指定日 昭和32年2月22日
- ・ 追加指定日 平成13年1月29日
- ・ 所在地 橋立、外波、青海
- ・ 所有者 国
- ・ 管理者 糸魚川市

[地図表](#) 戻る



古来より装飾品や威信財^{いしんざい}として珍重されてきた硬玉ヒスイの原産地で、[小滝川](#)とともにわが国随一の質量を誇ります。青海川上流の橋立集落に近い河床には、蛇紋岩^{じゃもんがん}の大露頭があり、これに接して点在する含ヒスイ曹長岩塊^{そうちょうがんかい}に緑色または淡紫色^{しまじょう}の縞状をなす硬玉が含まれます。

硬玉原石の一部は青海総合文化会館前と親不知ピアパーク内の[翡翠ふるさと館](#)に移設され、ともに国の天然記念物として大切に保管されています。



クモツマキチョウ^{およ}及び ヒメギフチョウ^{せいそくち}生息地



クモツマキチョウ



ヒメギフチョウ

- ・ 指定日 昭和29年2月10日
- ・ 所在地 小滝～大所
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る

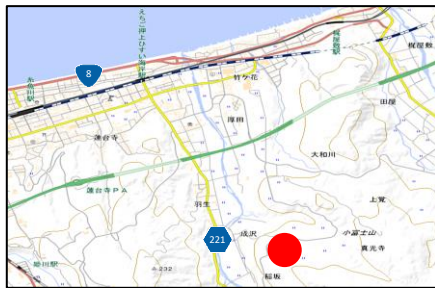


白色小形の蝶クモツマキチョウ（雲間妻黄蝶）はわが国の代表的な高山蝶の一種です。ヒメギフチョウ（姫岐阜蝶）は黄黒の斑模様があるアゲハチョウ科の蝶で、わが国の特産です。ウスバサイシンの葉裏に卵を産みつけ、幼虫はその葉を食べ、サナギになって越冬します。

両蝶とも本来は1,000mから3,000m級の高山帯に生息していますが、この姫川溪谷（平岩周辺、標高約300m）では比較的低山地帯に生息することから、蝶類の分布や生態を研究する上で注目されています。

しんこうじ おお

真光寺の大イチョウ



- ・ 指定日 昭和35年3月28日
- ・ 所在地 真光寺
- ・ 所有者 真光寺区
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る

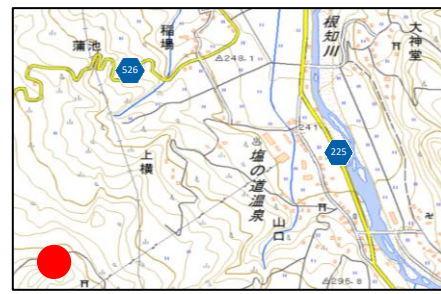


真光寺集落の白山神社境内にある銀杏いちようの木で、目通りの周り約9m、高さ約20mの大木です。地上から約6mの高さに幹周り約1mの板屋いたやが寄生し、乳が垂れさがっていました。今日では雪害で板屋は欠落し、若干の乳が残るだけとなりましたが、非常に珍しい巨木です。

延喜古道えんぎの道筋にあたる同集落には、真言宗光明山真光寺という寺がありました。境内の阿弥陀堂には、[木造阿弥陀如来坐像](#)が安置されています。

すぎのとう おお

杉之当の大スギとシナノキ



大スギ



シナノキ

- ・ 指定日 昭和50年3月29日
- ・ 所在地 杉之当
- ・ 所有者 白山神社
- ・ 管理者 杉之当区

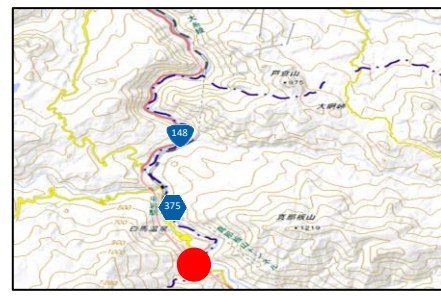
[地図表](#) 戻る



大スギは杉之当集落にある白山神社の神木で、目通りの周り約13m、枝張り約20mを測り、平成9年（1997）の「全国巨木調査スギの部」（環境省）において全国第9位となり、県下でも稀に見る大木です。地上約4mのところでは2本に分かれ、樹幹の空洞が年々拡大し裏枯れも目立つようになりました。

シナノキは大スギのある崖の下に位置し、目通りの周り約3.4m、枝張り約19mで比較的低位に自生するシナノキとしては市内でも最大です。樹勢も旺盛ですが、キツツキ等により、樹幹の空洞化が懸念されます。

シダレシナノキ



- ・ 指定日 昭和46年3月26日
- ・ 所在地 大所
- ・ 所有者 大所区
- ・ 管理者

[地図表](#)

[戻る](#)



旧国道148号の葛葉峠^{くずば}を越え、かつての蒲原温泉^{がまわら}へ下る道傍に自生するシナノキです。シナノキは日本特産の落葉高木で、古来よりこの皮の繊維をシナ布などの原料としていました。従来、枝^し垂^だれは知られていませんでしたが、植物研究家等により“*Jilia Japonica Simonkai from Pendula Mizushima*”と学名が付されたもので、植物奇形学上、極めて貴重です。



ボッカトチノキ



- ・ 指定日 昭和46年3月26日
- ・ 所在地 大所
- ・ 所有者 大所区
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



旧国道148号の葛葉^{くずば}峠近くにある^{とち}栃の大木で、目通りの周り約4.5m、枝張り約21mを測ります。栃の実^{とち}は古来より山間部の貴重な食糧であり、この一帯に広がった栃の木^{とち}の森もこの一本を残すだけとなりました。この大木は松本街道を往来して糸魚川から信州へ物資を運ぶボッカや牛方の好目標となり、彼らがこの木陰で休憩したことから、このように呼ばれたとされます。道端にそびえる大木は、かつての街道の往来を今に伝えます。

こうしょうじ

光照寺のギンモクセイ



- ・ 指定日 昭和47年3月25日
- ・ 所在地 蓮台寺2丁目
- ・ 所有者 光照寺
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



蓮台寺集落の光照寺境内に自生する老木で、目通りの周り約2.7m、樹高約12mを測り、樹齡は約300年と推定されます。銀木犀ぎんもくせいは中国原産モクセイ科の常緑灌木かんぼくで、日本では周囲3m程度が限度であるといわれます。これは県内でも最大級で、樹齡の割に勢いは旺盛で、四季を通じ青々とした樹葉が美しく、秋には小白花そうせいが叢生して芳香を放ちます。

こうしょうじ
光照寺のシイノキ



- ・ 指定日 昭和47年3月25日
- ・ 所在地 蓮台寺2丁目
- ・ 所有者 光照寺
- ・ 管理者

[地図](#)
[表](#) 戻る



蓮台寺集落の光照寺境内に自生する老木で、樹齢約300年と推定されます。5本の株立で、根周り約7mを測り、中央の幹は地上から3m付近で折れていますが、樹勢はおおむね良好です。

この一帯は中世以来の古墓が点在する西向きの傾斜地で、照葉樹と落葉樹が混在するうっそうとした森が広がります。このような森にあって、老木にもかかわらず、旺盛な樹勢を示すこの老木は特異な雰囲気漂わせます。

かまさわ じんじゃ おおすぎ
釜沢神社の大杉



- ・ 指定日 昭和49年3月28日
- ・ 所在地 釜沢
- ・ 所有者 釜沢区
- ・ 管理者

[地図](#)
[表](#) 戻る



釜沢集落の釜沢神社拝殿と本殿の間にある老木で、根周り約11m、目通りの周り約10m、樹高約33.5mを測ります。地上2m付近で2本に分かれ、うち1本は8m付近でさらに分岐しています。市内に残る杉では杉之当の大スギに次ぐ巨樹で、樹勢も極めて旺盛です。この周辺にはほかにも目通りの周り3.5m前後の杉が苔むした境内を覆っています。

せきしよえのき

関所榎



- ・ 指定日 昭和49年4月16日
- ・ 所在地 市振
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



市振小学校校庭の中央にあるこの^{えのき}榎の大樹は目通りの周り約4.2 mを測り、樹齢は約250年と推定されます。かつて街道の関所や一里塚には目印として樹木が植えられましたが、この榎はまさに市振関所の名残です。

市振は、越後と越中（富山県）の国境に位置し、その名のとおり越後の「第一番の振り出し」にあります。加賀前田侯の参勤交代の要路でもあり、親不知の西の入り口として、北陸道の重要な関所の一つでした。

かいどう まつ
海道の松



※
指定
解除

- ・ 指定日 昭和49年4月16日
- ・ 所在地 市振
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者

解除日：2016年10月5日
※倒壊により原状をとどめていない

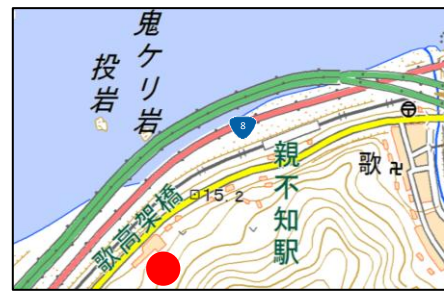
[地図表](#) 戻る



北陸道市振宿の東端の街道脇にそびえる老松で、目通りの周り約3.5mを測り、樹齢は約230年と推定されます。明治16年（1883）の国道開通以前は、北陸道の旅人にとって「天下の険・親不知」難所越え終点地の目標、また難所越えを前に安全を期する出発地ともなっていました。北陸路の要所の目印として、この老木はかつての賑やかな往来を今に伝えます。

わかみやしゃそう

若宮社叢



- ・ 指定日 昭和49年4月16日
- ・ 所在地 外波
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者 荒戸集落

[地図表](#) 戻る



親不知の荒戸集落裏手に迫る急崖にある白山若宮社の石祠を覆う原生林で、暖地性の藪椿^{やぶつばき}の大樹や、榊^{たぶ}の老木が混在して自生し、昼なお暗い社叢^{ひもろぎ}は神籬の古態を残すものとして貴重です。

地元では「お宮の森」と呼んでいます。

すざわ みず ばしょうぐんせいち
須沢水芭蕉群生地



- ・ 指定日 昭和50年2月15日
- ・ 所在地 須沢
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者 糸魚川市

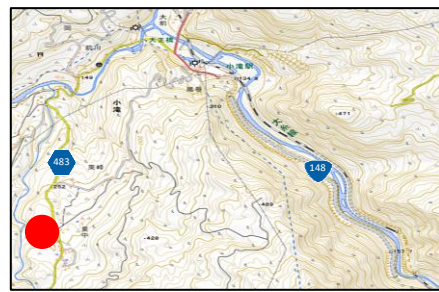
[地図表](#) 戻る



ミズバショウは本州の中部以北の高山・湿原に自生するサトイモ科の多年草で、葉は大きく楕円形を呈し、淡緑色で長さ1mに達するものもあります。須沢集落南側の山裾にあるこのミズバショウの群生は、標高約5m、海岸からは約1kmに位置し、全国的にも標高の低い自生地であり、約5,000株が開花する3月中旬から4月中旬頃は見事です。

地下には球状の根茎があり、花（花序）は葉に先立って咲きます。黄緑色を呈し、白色の杓子状の包葉（ぶつえんぼう仏焰苞）につつまれています。

くわ き
桑の木



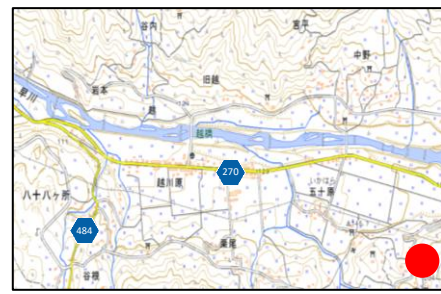
- ・ 指定日 昭和52年11月30日
- ・ 所在地 小滝
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



小滝の^{なつなか}夏中集落にある桑の木の巨樹で、根周り約2m、目通りの周り約1.7m、樹高約15.3m、枝張り6.5m前後を測ります。桑は落葉^{きょうぼく}喬木で幹立し、樹高が10mに及ぶものもありますが、普通は養蚕に伴って刈り取られることから、このような大木はたいへん珍しいものです。この木はかつて、養蚕に利用されていたことから、小滝地区で盛んであった養蚕を伝える遺物ともいえます。

じょうほう じ う ばざくら
浄法寺の乳母桜



- ・ 指定日 昭和61年6月27日
- ・ 所在地 東塚
- ・ 所有者 浄法寺
- ・ 管理者

[地図](#)
[表](#) 戻る

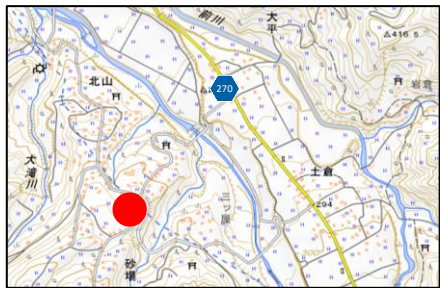


下早川の東塚集落、浄法寺の境内中央にある枝垂桜で、ウバヒガンの変種、糸桜いとざくらともいいます。目通りの径約0.75m、樹高約14mを測り、枝張りは境内全体を覆っています。樹齢は150年から200年と推定され、樹勢は極めて旺盛です。着花状態は良好で、境内を覆った満開の花は来訪者の眼を奪います。雪の多い県下では、大きさ・太さ・樹齢からみても珍しい桜の巨樹です。

聖徳太子の乳母の伝説があることから「乳母桜」と呼ばれています。

ぜんしょうじ

善正寺のシダレザクラ



- ・ 指定日 昭和61年6月27日
- ・ 所在地 砂場
- ・ 所有者 善正寺
- ・ 管理者

[地図](#)
[表](#) 戻る



上早川の砂場集落、善正寺本堂跡の裏にある枝垂桜で、ウバヒガンの変種、糸桜いとざくらともいいます。目通りの径約0.9m、樹高約15mを測り、樹齡は200年以上と推定されます。豪雪地のためか、枝張りは良好ではありませんが、雪の多い県下では、大きさ・太さ・樹齡からみて珍しい桜の巨樹です。

オオバノハチジョウシダ・フモトシダ・
シロヤマシダ・ヒカゲワラビ^{じせいち}自生地
ヒメハルゼミ^{せいそくち}生息地



オオバノハチジョウシダ



ヒカゲワラビ

- ・ 指定日 平成3年3月28日
- ・ 追加指定日 平成9年12月25日
- ・ 所在地 能生
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者

[地図表](#) [戻る](#)



[能生白山神社社叢^{しゃそう}](#)から、その東北部の杉林一帯に、暖地系の珍しいシダ類が自生しています。

オオバノハチジョウシダ・フモトシダはワラビ科の暖地性シダ植物で、関東以西に自生しますが、日本海側ではこの群生地を北限とします。

シロヤマシダ・ヒカゲワラビも関東・北陸以西に分布しますが、新潟県や富山県内での生息はたいへん珍しく、ヒカゲワラビは絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。

[ヒメハルゼミ発生地](#)や社叢の東南部にアカガシをはじめとした広葉樹林が広がり、7月中旬から下旬にかけて、ヒメハルゼミの鳴き声が共鳴します。

ゆきみ
雪見タブ



- ・ 指定日 平成8年3月28日
- ・ 所在地 蓮台寺
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



蓮台寺集落の谷あい斜面の竹林にある^{たぶし}榊の巨樹で、幹周り約6.6m、樹高約12m、枝張りが東西約17m、南北約12mを測り、樹齢は300年以上を数えます。榊はクスノキ科の常緑高木で、温暖な地方の海岸付近に自生しています。県内の榊を代表する巨樹であり、樹勢は旺盛で、古くから「雪見タブ」と呼ばれて親しまれています。

ね ち いと い がわ しずおかこうぞうせん ろ とう
根知の糸魚川—静岡構造線露頭



※
指定
解除

解除日：2021年3月26日
※国指定に昇格したため、市指定は解除

- ・ 指定日 平成8年8月27日
- ・ 所在地 根小屋
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者

[地図](#)
表 戻る



姫川と根知川の出合、根知川右岸にあり、フォッサマグナの西縁である日本第二の規模をもつ活断層「糸魚川—静岡構造線」を直接観察できる場所です。舞鶴帯、虫川オリストスロームの変はんれい岩（約2億5千万年前）とフォッサマグナ地域・根知玄武岩（約1千万年前）が断層破碎帯をはさんで接している様を見ることができます。

糸魚川—静岡構造線は現在、ユーラシアと北アメリカ各プレートの境界と考えられていて、日本の地質を知る上でも貴重です。

ね ち まくらじょうようがん
根知の枕状溶岩



- ・ 指定日 平成8年8月27日
- ・ 所在地 根小屋
- ・ 所有者 個人
- ・ 管理者 糸魚川市

[地図表](#) 戻る



[根知の糸魚川—静岡構造線露頭](#)より東方へ約300mの岩壁にある露頭で、国内最大級の規模をもつ直径約12mに達する放射状節理を示す枕状溶岩のほかに、同心円状節理を示す枕状溶岩、ハイアロクラスタイトなど海底火山活動の特徴づける火山岩類を含みます。フォッサマグナがまだ海だった時期（新生代新第三期中新世）に海底で玄武岩質火山活動があった直接的な証拠であることから、水中で固結した火山岩の典型的な形態を示すものとして、火山地質学的にも、さらに糸魚川の地質を知る上でも重要です。

さんのうもりおおけやし

山王森大櫨



- ・ 指定日 平成10年3月24日
- ・ 所在地 水保
- ・ 所有者 日吉神社
- ・ 管理者 水保・北山氏子信徒総代

[地図](#)
[表](#) 戻る



水保・北山集落内の通称「^{さんのもり}山王森」にある大櫨で、目通りの周り約7.2m、樹高約26m、枝張り東西約38m、南北が約32mと見事な大きさと枝張りを誇り、地上約4mで二支幹に、地上約5mで六支幹に分かれています。樹齢は300年以上と推定され、樹形も均整がとれ、樹の大きさに加えて、枝葉・幹部の枯れたところが少なく、枝葉の張りも良く、良好な生育状況です。

古くから地区の人たちに親しまれ、市内に残る櫨では最大で、県下でも櫨単木としては上位に位置づけされる巨木です。

国 記念物 天然記念物

いといがわしねち いといがわ しずおかこうぞうせん
糸魚川市根知の糸魚川—静岡構造線



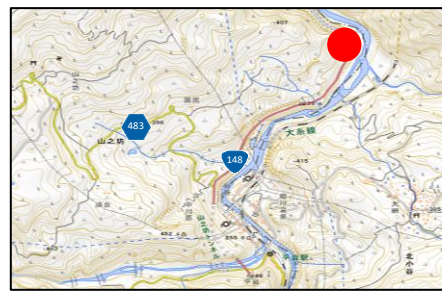
- ・ 指定日 令和3年3月26日
- ・ 所在地 根小屋
- ・ 所有者 糸魚川市
- ・ 管理者

[地図表](#) 戻る



糸魚川—静岡構造線は、日本列島を地質的に東北日本と西南日本に分ける長さ約250kmの大断層です。断層の東側は、ナウマン博士によってフォッサマグナと呼ばれた地域で、およそ1500万年前に日本列島がアジア大陸から分離し日本海が拡大した時にできた凹地です。

この凹地に海水が侵入して日本海と太平洋が繋がり、その後、火山活動による噴出物や泥・砂などにより埋め立てられました。フォッサマグナの形成は、日本列島の誕生に深くかかわっています。



やまのぼう きせきろとう
山之坊コスモクローア輝石露頭



- ・ 指定日 令和2年7月3日
- ・ 所在地 山之坊
- ・ 所有者 山之坊生産森林組合
- ・ 管理者 糸魚川市

[地図](#)
[表](#) 戻る



コスモクローア輝石は、1894年にメキシコのToluca（トルカ）隕石から発見されたことから、名前に宇宙（コスモ）が冠された緑色の鉱物です。日本国内では糸魚川市、岡山県、高知県の3か所のみで発見されている、ヒスイを上回る希少価値を持つ鉱物です。

糸魚川市内では、2019年にコスモクローア輝石を含むネフライト（軟玉）の露頭が山之坊地内で初めて確認されました。この露頭は、日本国内においても極めて希少であり、柵を設置し保護しています。

しろ うまれん ざん こう ざんしょくぶつ たい
白馬連山高山植物帯

ハクサンコザクラ



チングルマ

・ 特別指定日 昭和27年3月29日・ 所有者
管理者

農林水産省

[地図](#)
[表](#) 戻る



日本アルプスを代表する高山植物の生息地帯で、新潟・長野・富山の三県にまたがっています。白馬三山をはじめ、白馬大池・雪倉岳などに及ぶ広大な地域には、キバナシャクナゲ・コマクサ等の多種類の植物がみられるほか、チシマセンブリ・リシリオウギ等の北地系植物の南限をなすものも少なくありません。

ライチョウ



提供：靄本修一

・ 特別指定日 昭和30年2月15日・ 所有者 新潟県
管理者

[地図
表](#)[戻る](#)

ライチョウ（雷鳥）は高山帯にすむ^{おうけい}鷓鴣目の鳥で、天敵にごく弱いことから四季に応じた保護色になります。市内では蓮華一帯から火打山、焼山及び^{あまかざり}雨飾山などの高山に生息しています。

なお環境省カテゴリーでは絶滅危惧種 **IB**類、新潟県カテゴリーでは絶滅危惧種 **I**類に指定されています。

カモシカ



・ 特別指定日 昭和30年2月15日・ 所有者 新潟県
管理者

[地図](#)
[表](#)

戻る



わが国特産のカモシカは、^{ぐうていもく}偶蹄目ウシ科に属し、北海道を除く山岳地帯に生息しています。小牛ほど大きさをもち、一産一仔のため容易に繁殖せず、古来よりすぐれた毛皮が珍重されたことから数を減らしてきました。市内では主に姫川流域以西の山岳部に生息していましたが、近年ではその生息域を広げ、人家近くにも出没するようになりました。